

日本で最も多くの1級建築士を輩出し続けている学校です。

※平成24~28年度(過去5年累計)1級建築士設計製図試験 合格者合計19,562名中、総合資格学院受講生10,636名、全国合格者占有率54.4%。
 ※(公財)建築技術教育普及センター発表資料に基づきます。

おかげさまで

「1級建築士合格者数日本一」を達成し続けています。

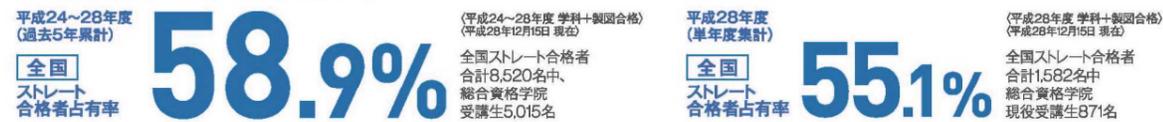
これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院 学院長

岸 隆司



1級建築士 設計製図試験 1級建築士を1年で取得するなら総合資格学院



1級建築士 卒業学校別実績

平成24~28年度(過去5年累計)の各年度における卒業生合格者20名以上の学校出身合格者の6割以上は総合資格学院受講生です。

平成24~28年度の各年度における卒業生合格者20名以上の学校出身合格者合計10,777名中、総合資格学院受講生合計6,605名

合格者占有率 **61.3%**

平成28年度 1級建築士設計製図試験 卒業生合格者20名以上の学校出身合格者 1,891名中 総合資格学院受講生 1,110名

合格者占有率 **58.7%**

卒業合格者	当学院受講者数	卒業合格者	当学院受講者数	卒業合格者	当学院受講者数	卒業合格者	当学院受講者数
180	90	44	24	34	23	25	17
123	74	42	28	34	23	25	13
90	51	41	28	32	19	24	15
81	56	40	14	31	15	24	13
69	41	40	22	31	16	24	13
65	42	38	26	31	20	23	16
61	25	37	21	29	16	23	13
61	33	36	23	29	24	23	11
57	34	36	12	28	17	21	11
52	34	34	21	27	17	20	13
46	21	34	25	26	18	20	12
		京都工芸繊維大学		名城大学		愛知工業大学	
		東京都立大学		千葉大学		大阪市立大学	
		関西大学		首都大学東京		中央工学校	
		東京大学		金沢工業大学		千葉工業大学	
		大阪工業大学		神奈川大学		名古屋大学	
		東海大学		東北大学		熊本大学	
		横浜国立大学		横浜国立大学		摂南大学	
		名古屋工業大学		広島大学		大阪大学	
		東京電機大学		広島工業大学		福井大学	
		北海道大学		鹿児島大学		聖隷工業大学	
		東京工業大学		前橋工科大学		福岡大学	

※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。 ※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等も受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。
 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受講生、教材購入者、資料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※総合資格学院のNo.11に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。
 ※全国合格者数および全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。 ※学科・製図・ストレート合格者とは、建築士学科設計製図試験に合格し、同年度の建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

平成28年度 2級建築士 設計製図試験



【法定講習】

監理技術者講習 / 一級・二級建築士定期講習 / 管理建築士講習
 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習 / 第一種電気工事士定期講習

法定講習サイト 検索

【法人サポート】

各種合格ガイダンス / 模擬試験・社内講習会 / 新卒採用支援 / Web学習サービス
 有資格者育成プラン / 願書取り寄せサービス

- 1級・2級 建築士
- 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士
- 建築設備士
- 1級・2級 建築施工管理技士
- 1級・2級 土木施工管理技士
- 宅地建物取引士
- インテリアコーディネーター
- 1級電気工事 施工管理技士



総合資格学院

スクールサイト www.shikaku.co.jp Facebook「総合資格 色」で検索!
 コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp 総合資格 検索



【静岡校】静岡市葵区伝馬町9-1 河村ビル 5F
 TEL:054-275-3311 FAX:054-275-3301
 【沼津校】沼津市高島町6-3 アゼル沼津ビル 1F
 TEL:055-930-2621 FAX:055-930-2622
 【浜松校】浜松市中区中央3-9-3 UNビル 2F
 TEL:053-456-2211 FAX:053-456-2261

昭和33年12月25日第3種郵便物認可
 平成29年7月1日発行
 KENCHIKU SHIZUOKA

建築静岡

Kenchiku Shizuoka

夏号 2017 Summer No.661



KENCHIKU SHIZUOKA Public relations magazine

静岡理科大学
 建築学科棟 えんつりー

特集 ■ 県内初の建築学科 静岡理科大学
 ■ 道の駅 伊豆編

公益社団法人静岡県建築士会
 Shizuoka Association of Architects & building Engineers
<http://www.shizu-shikai.com>

公益社団法人静岡県建築士会

定価一部260円、送料一部100円
 会員の方には購読料として会費の中に含まれています。

建築静岡 Summer 2017

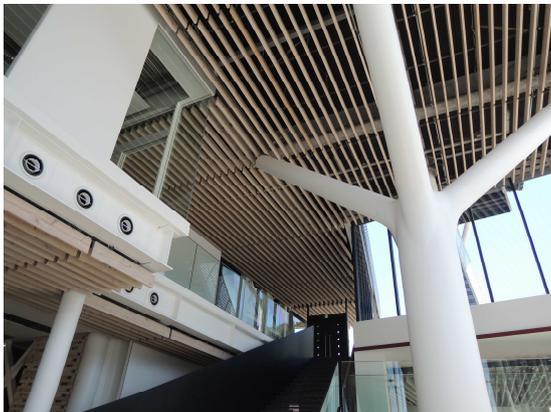
第661号 平成29年7月1日発行
 昭和33年12月25日第3種郵便物認可

発行所 公益社団法人静岡県建築士会
 静岡市葵区御幸町9番地の9
 TEL 054-254-9381
 印刷所 南橋本印刷所

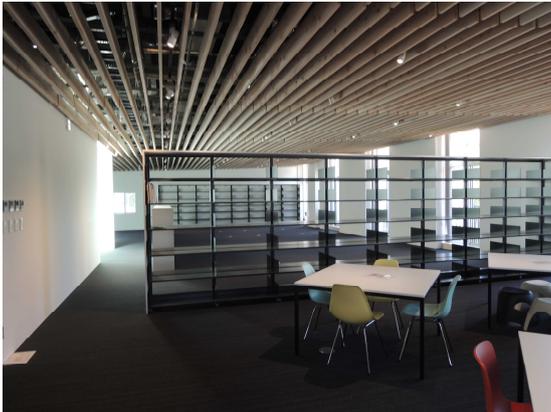
静岡理科大学 建築学科棟 えんつりー



東側ファサード



建物の名称になっている木をモチーフにしたS造柱



4階読書コーナー これから本が増えていくのでしょう

Contents

1 目次

■総会挨拶

- 2 会長挨拶 (公社) 静岡県建築士会会長 佐藤博之
来賓祝辞 静岡県議会議員 杉山盛雄

■連載

- 3 ハイブリット社会に生きる
住宅資産研究所 倉田 剛

■特集

- 4 県内初の建築学科 静岡理科大学

■特集

- 8 道の駅 伊豆編

■連載

- 11 しずおか木造塾 (第5回講座)
しずおか木造塾委員会 山下晋一

■コラム

- 12 コーヒーブレイク
“相談は誰に?”・・・仕事おやじ/東部ブロック
“今帰ったよオ”・・・どこに行ってたの!!/西部ブロック

■連載

- 13 景観整備機構【瓦版】 第79回
景観整備機構まちづくり委員会 木村精治

■平成29年度定期総会

- 14 総会議事録

■お知らせ、編集後記

- 16 事務局からのお知らせ、入退会者
編集後記・ご意見募集

地盤調査からコンクリート杭・PC基礎の
製造・施工まで対応

目立たない安心を お届けします

詳しくは、ホームページで ▶ 野村商店 🔍

www.nomuragroup.com



NOMURA Since 1922 株式会社
野村商店

伊東営業所 TEL.0557-45-2245
伊豆南営業所 TEL.0558-22-3655
熱海営業所 TEL.0557-82-1244
伊豆中央営業所 TEL.0558-76-3114
御殿場営業所 TEL.0550-83-1306
沼津営業所 TEL.055-941-7020
静岡営業所 TEL.054-284-3461
浜松営業所 TEL.053-422-3636

会長挨拶

公益社団法人
静岡県建築士会
会長/佐藤博行



会員の皆様には、本日、大変お忙しい中ご出席をいただき、ここに定時総会を開催できますことを厚くお礼申し上げます。

又、当会の運営に対しまして、日頃より大変多くのご支援ご協力をいただいております事を衷心より感謝申し上げます。

杉山静岡県議会議長様、高木静岡県くらし・環境部部長様はじめとして大勢のご来賓の皆様が、お忙しい中を本総会にご出席賜り心から厚くお礼を申し上げたいと思います。

さて我々建築関係の経済状況は東京一極集中の為か、なかなか好転の兆しを実感できておりません。静岡に効果や影響が表れるのは1年や2年とはかかるとは思いますが、早く建築業界が好況になる様にと切に願っております。

昨年、熊本地方を二度にわたり大きな地震が襲い、大変大きな被害がもたらされました。地域係数や断層の問題等がありますが、新耐震で設計された住宅の被害が多く、新々耐震で設計された住宅は倒壊が少なかったようです。又、震災直後の判定士の活動や、被災後の罹災証明の発行などにも大変なご苦労をされているようです。

昨年、この熊本地震の被災状況を調査するため会員からなる調査班を派遣しました。この見聞した知識を、今後の地震関係の事業に大いに活用していきたいと考えています。

震災後、県民の耐震に対する関心が非常に高く、わが家の耐震診断の申し込みが、年

度当初に見込んだ2倍近くにのぼりました。

静岡県建築士会もその時の為に、TOUKAI-0や、応急危険度判定士の資質向上と制度の整備にしっかりと取り組むときです。

再度足元を見つめ直し、耐震関連をはじめ建築士としての技術と能力を十分に発揮すべく、更なる向上に努めるときと思います。

新年度もインスペクターの資格講習等をはじめとして、設計、施工、監理を業務とする我々建築士の未来の為に建築業界全体の信用の為に、静岡県建築士会が会員の技術と能力の向上の為に、時間や場所を提供できるよう各種講習会等を行ってまいります。

建築士会は資格者個人の集まりですが、その一人ひとりの力を十分に発揮させるためには、先ず建築士会に於いてその環境づくりをしなければなりません。然しその静岡県建築士会を動かしているのは偏に会員の皆様の熱意であります。会員の皆様には、今以上の活性化と充実した活動をと願っています。又、役員一同も会務運営に一層務めてまいりますので、ご支援ご協力を重ねてお願いいたします。

本日の総会は皆様のご意見を反映させる場でもあります。活発なご意見と、順調なご審議をよろしく願います。

結びに、会員の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍・ご発展をご祈念申し上げ、総会の開催に当たってのご挨拶といたします。

来賓祝辞

静岡県議会
議長/杉山盛雄



公益社団法人 静岡県建築士会 平成29年度定時総会の開催に当たり、静岡県議会を代表いたしまして、一言、お祝いを申し上げます。

皆様には日頃から、住まいをはじめとしたあらゆる建築物の安全性や快適性につながる設計、施工、監理を業務として、建築を通じ本県の発展に多大な御貢献をいただいておりますことに、深い敬意と感謝の意を表する次第であります。また、貴会は公益法人として、日頃より建築士の資質と技術力の向上に御努力され、県民とのコラボや地域に貢献する事業を展開されるなど、社会に寄与する事業を実施されており、本県が東海地震対策として推進する「TOUKAI-0」(トウカイゼロ)事業では、静岡県地震被災建築物応急危険度判定士や耐震診断補強相談士の養成などの講習会事業を展開されております。皆様御存知のとおり、東日本大震災を初め、昨年4月に発生した熊本地震や10月に発生した鳥取県中部地震など、規模の大きな地震が全国各地で発生しており、改めて地震対策の重要性を痛感しているところであります。

一方、これらの地震により新たな課題や

知見が明らかにされつつあり、大きな教訓を与えるものとして、本県の地震・津波対策の充実強化に反映していくことが極めて重要であると考えております。

安心・安全で快適な住まいは、依頼者と建築士との厚い信頼関係の下、依頼者の想いが的確に伝わり、建築士にそれを実現するための知識と技能に加えて、感性も備わってこそ完成するものであります。また、こうした考え方は、地域づくり、まちづくり活動に通じるものであると思います。

私ども県議会といたしましては、皆様の活動に今後とも支援を続けてまいりますので、皆様におかれましても、東海地震対策とともに、県民個々の住宅建築に加え、景観形成などの地域づくり、まちづくり活動においても、県民の皆様の信頼に応える確かな知識と技能、さらに豊かな感性を存分に発揮されますことを御期待申し上げます。

結びになりますが、静岡県建築士会のみならずの御発展と、会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



高齢期の持家は足枷になる？

—老人は家を持たないで—

倉田 剛*

エイジング問題の世界的な権威であった故バトラー、ロバート博士(1927-2010)は、1991年、著書『老後はなぜ悲劇なのか?』のなかで、アメリカの持家老人たちを次のように書いている。「自分の家を所有しているが、一般的な持家に関して連想される特権は必ずしも保証されていない。言い換えれば、かなりの財産、収入に占める住居費の割合が低いこと、もし他へ移りたいならば十分な固定資産がある等々の特権を裏づける事実ではない」。バトラー博士が指摘している点は、持家であっても、担保や税金などを差し引いたら純粋価値(Equity)は低いことであり、家賃負担(帰属家賃)はないが、他に移りたいときはその処分などが足枷となり不利な立場に陥り、結局、最後は自分の家に縛られてしまうのだ。また自分の家の維持修繕費は、固定収入の高齢者家計にとって重大な負担となり、また業者との折衝も不慣れで気の重いことであり、悪質な業者の餌食になる不安もある。典型的な都市部に住まいのある世帯では、さらに固定資産税が重圧となる。1971年、高齢化問題に関するホワイトハウス会議の席上で、ニクソン大統領は、「かつて独立のシンボルであったその同じ家が老人の貧困の原因となっている」と指摘している。それから1973年までの間に、高齢者の家の固定資産税の控除が、全米の25州で採決された。

都市問題の全米委員会は、1968年の研究報告書の中で、「固定資産税は、裕福な層より貧困層に負担がかかり、住宅をまともに維持するのを阻害している」と指摘している。また「固定資産税は、所得や富を平等にする課税手段としては最善の方法のひとつであるが、「固定資産税の価値に対して公平に課税された場合」というのが前提条件となる」とも報告している。州によっては、老人が老齢扶助を受ける際には、その福祉当局に、自分の家を譲り渡すこと(先取特権)の承諾を義務付けられた。老人は自分の家に住む続けることができるが、いったん生活保護の受給者が死亡すると、州が住まいの財産権を取得する取り決めであった。この法律の含意は、老人の公的援助の申請意欲を削ぐ点にあったのだが、しかし相続財産ではなくなった家に対する維持修繕の意欲までも削ぐことになり、州が競売にか

けても最安値でしか成約に至らなかった。

以上に述べたアメリカの高齢者の持家の問題は、そのまま最近の日本の持家高齢者の問題でもある。困窮家計の持家高齢者が生活保護を申請すると、2007年度からは、先ず福祉事務所が窓口の要生活保護世帯向け長期生活支援資金貸付制度(要保護リバースモーゲージ)の利用が優先される。要保護リバースモーゲージでは、実勢価格が500万円以上の持家が対象となり、一戸建7割、マンション5割の貸出極度で、保護基準額の1.5倍相当が貸し出され、担保割れしたら生活保護に切り替わる。貸付利息は長期プライムレートで上限3%、連帯保証人は不要だが推定相続人の同意は必要だ。この要保護リバースモーゲージは、保有資産を子に相続させながら生活保護を受けるのは不公正だとし、いまひとつ高齢者世帯の生活保護の増加を抑制する目的もあった。厚生労働省の不動産担保長期生活資金貸付制度(リバースモーゲージ)は社会福祉協議会(社協)が窓口であり、住民税非課税か均等割課税の低所得世帯、1,500万円(1,000万円も)以上の戸建、マンションは対象外、担保割れすると、そこから先は生活保護世帯となる。この二つの制度区分は——縦割り行政の所為だろうが——利用者側からすると釈然としない。現実的には畢竟どちらも生活保護に落ち着く確率が極めて高いからだ。ならば、社協で扱っているリバースモーゲージも、要保護リバースモーゲージと適用要件を同じにするべきだ。その方が、困窮家計の高齢者世帯が生活保護に陥る確率を改善させる効果が期待できるからだ。

リバースモーゲージは、本義的には持家高齢者の生存権的で自衛的な取り組みであるはずだが、その実態は、バトラー博士の指摘どおり、「自分の家を所有していても持家に関して連想される特権は必ずしも保証されていない」。政府や自治体は、老人の住んでいる家について、セール・リースバックやピアジェ、あるいはシェア・ハウジングなどと、クリエイティブなプログラムを試みようとは考えていないらしい。せめてリバースモーゲージのなかに、持家の固定資産税延納のプランでもあれば、困窮家計の公的負担がずいぶん軽減されるはずだが。こうした体制の下で長生きするには、経済的な逼迫や家族の負担、さらに認知症などのリスクを背負う覚悟が要る。いまこそ、官を待たずに、自助・互助・共助を以って、シニア・コミュニティと絡めた民間プログラム・リバースモーゲージの旗を掲げるときだ。

* 一級建築士・経営学博士(法政大学)・経営情報科学博士
NPO法人リバースモーゲージ推進機構・理事長
一般社団法人住まいの年金化事業促進センター・代表理事

— 県内大学初の建築学科 —

「静岡理工科大学 理工学部 建築学科」と「建築学科棟 えんつりー」

建築学科について

2017年4月県内大学では初めての建築学科が静岡理工科大学理工学部設置されました。

静岡県では、建築の耐震・防災技術、省エネルギー住宅、循環型社会の地域まちづくり等を担える建築人材のニーズが高いにも関わらず、県内大学には、今まで建築学を総合的に学べる学科はありませんでした。静岡理工科大学理工学部建築学科は、地域での建築群、環境、コンパクトシティ、防災等の研究を通して、静岡県に適したエコ住宅や公共建築等のデザインや建築計画を考え、建築意匠・構造・環境設備の技術を学び、静岡県で生活する人々の文化と融合し、新たな文化を創造する建築家・建築技術者を養成します。

静岡理工科大学理工学部建築学科の概要は、次の通りです。

◇開設：2017年4月

◇定員：学部50名（50人／学年×4学年＝200人）

（平成33年4月大学院修士課程設置予定）

◇教員：9人（予定）

◇特徴：実務経験豊富な教員陣、新校舎を環境、耐震等の研究の対象とした教育研究、少人数教育、地域の行政と連携したPBL^{*}教育、防災・減災技術・省エネルギー技術の普及に向けた教育・研究

◇目指す主要な資格：一級建築士（実務経験2年）、二級建築士、インテリアプランナー、建築施工管理技士など、

^{*}PBL（ProblemあるいはProject-based Learning）：学生が主体となって行う問題解決型の学習

「entree 建築学科棟 えんつりー」について

建築学科の開設にあわせ、「建築学科棟 えんつりー」が、2017年2月に竣工しました。「えんつりー」の名称は、デザインコンセプトである「縁側」と構造的な特徴である「樹木」、学生が入学し、あるいは社会に羽ばたく言葉として「Entry」を組み合わせて考案され、市民に開かれた建物、かつ木の縁側がある建物などの意味を持っています。entreeの「T」の曲線は、台形型のキャンパス軸を受けとめるために生まれた外壁の曲線をトレースした形状を表現しています。

entree

建物概要

◇建築名称：静岡理工科大学 建築学科棟 えんつりー

◇用途：大学

◇設計：古谷誠章+NASCA（ナスカー級建築士事務所）

◇施工：鈴木建設株式会社

◇建築主：学校法人静岡理工科大学

◇所在：静岡県袋井市豊沢 2200-2

◇構造：鉄骨造4階建て（ブレース付きラーメン構造）

◇延べ面積：3,520 m²

◇主な施設内容：1階—デザインスタジオ、講評室 2階—講義室、アクティブラーニング室、PC室 3階—教員研究室、ゼミ室、会議室 4階—環境・設備系ラボ、意匠・計画系ラボ、構造・生産系ラボ



「T」の曲線の元となった外壁曲線

「entree 建築学科棟 えんつりー」のコンセプト

建築学科棟えんつりーは、建築の教育の場として相応しい学び舎とするため、次のようなデザインコンセプトのもとに設計されました。

◇社会との接点となる建築学科棟「地域の縁側」

大学の地域連携の拠点となり、地域に貢献する人材を育む校舎自体が「地域の縁側」となる

◇大きな軒下空間

学生と教員、地域の住民が日常的に触れあい、様々な活動が融合する広場となる「大きな軒下空間」

◇オープン性を高めたラーニングスペース

デザインスタジオ、講評室、ラウンジやラボなどのオープンスペースを介して、様々な活動がつながり、新たな思考が創出される

◇校舎そのものが教材

力の流れが目に見える「構造」、「環境装置」として働き見える「設備」、土地の材料を使って手に触れる「材料」

◇キャンパスモールを受け止めるランドスケープ

キャンパスの軸やつながりを受けとめ、一体化した重なりを持つ空間

◇短工期を可能にする構造計画

メインフレームを鉄骨とし、木の温かみを感じる木材を随所に使用する

◇アクティビティと連動した「建築環境」

優れた外皮性能とともに、共用部を半屋外化して空調空間を縮小させ、消費エネルギーを削減する。

◇建築とシステムを融合した省エネ

外部日射遮蔽や LED 照明の採用等によるエネルギー負荷の削減と、自然換気によるパッシブ性能を重視した建築

◇地域防災の拠点となる安全・安心の学び舎

大地震などの災害時に安全に建物内に留まれる安全性に加え、天井材落下などの二次的な災害を防ぐ「安心・安全の学び舎」

意匠・計画 Design・Planning

台形のキャンパスモールには微妙に異なる2つの軸線が存在します。2つの軸線を結びつけるために導入されたのが曲面壁です。南北から法面がせまった敷地の制約もあって、柱を外側に傾斜させ、上階ほど床面積が大きい構成としています。各階はできるだけ壁を設けずに出会いからコミュニケーションを促進させる空間として計画されました。



2つの軸線を結びつける曲面壁



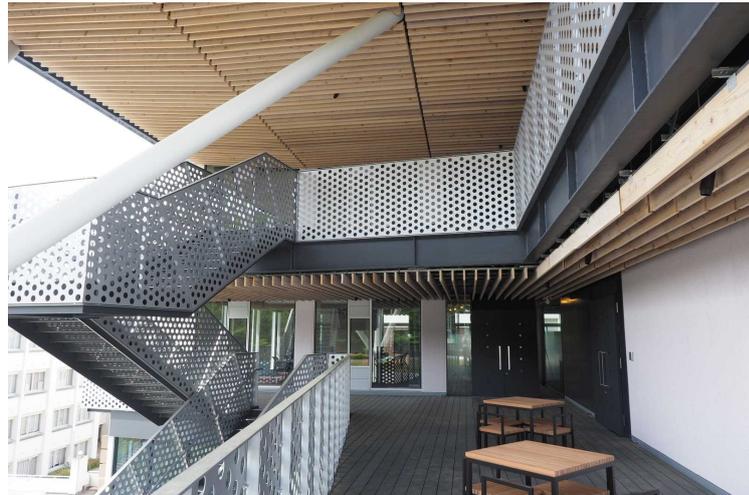
上階ほど床面積が広い構成



廊下との境界に壁のない開放的な空間（左：デザインスタジオ、右：3つのラボ）

構造 Structure

静岡県では東海地震等に備えるため、地震地域係数が日本で最も高い値として定められています。それに安全率も乗じ通常の建物の1.5倍の地震力で設計されています。この建物を研究対象として、各階には地震計を置き計測していきます。壁のない製図室や研究室を実現させるため、短辺3.6m×長辺11~14mの鉄骨による架構として、中央付近にブレースを集中して設けました。もう一つの特徴が樹状柱です。「大きな軒下空間」をつくるため、単調な柱梁フレームではなく枝分かれする樹木状の柱としました。意匠と構造が融合したデザインにより、ダイナミックな空間が生まれました。



樹状柱により支えられた大きな軒下空間



エントランスの樹状柱
(幹と枝はパイプ、枝分かれ部は鋳物)



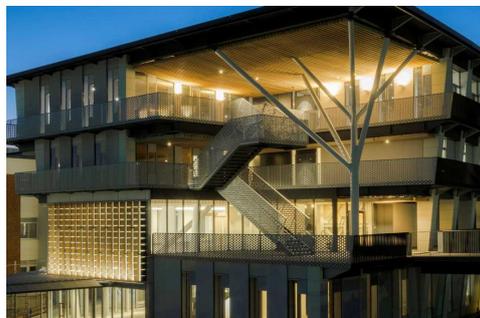
中央付近のブレースも見せるデザインとした

環境 Environment

年平均 15~16°Cという温暖な気温、全国的にも長い日照時間、「遠州のからっ風」と呼ばれる季節風が、地域の気候特性です。縦長窓を均等配置し、採光効率を高めた新たな自然換気窓を設けたり、トップライトを建物中央付近に設置することで、空調や照明のエネルギー消費量を抑えています。



4階のトップライトから2階に光が落ちる。換気窓も設けた。



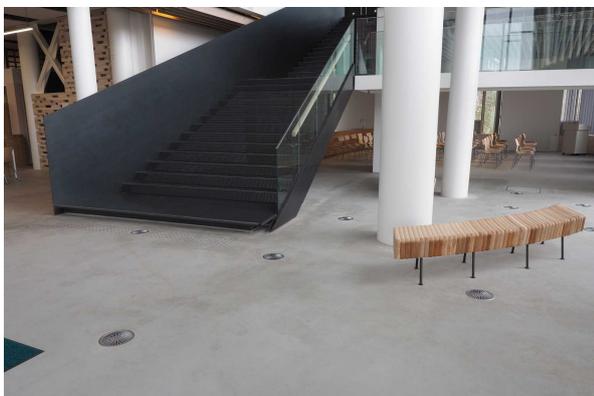
夜間はキャンパスの行灯となる。色温度を落とした照明計画。



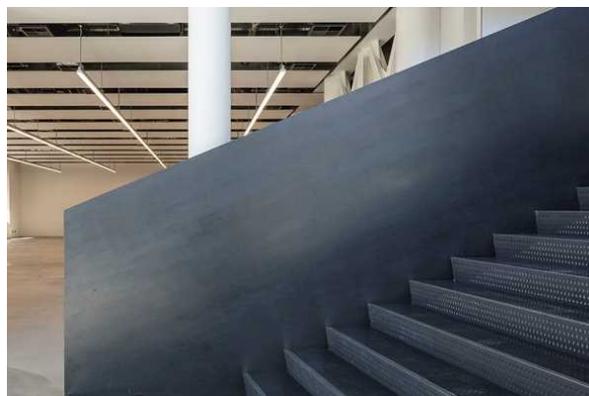
上下に手動の換気窓がある縦長スリットによる開口。

材料 Material

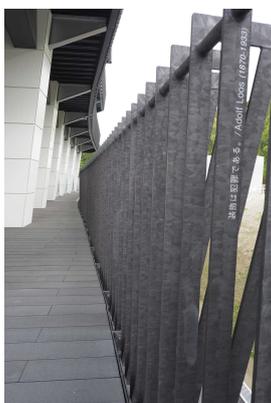
日本三大人工美林のひとつ、天竜の木材である天竜杉は、温暖で雪害が少ない気候で育つため、まっすぐで節が少なく、赤みが強い特徴を持ちます。脂分が多く、水にも強い天竜材をルーバーなどの内外装材として用いました。また、コンクリートの床や鉄の階段・手すりなど、材料の素材感を感じられるデザインとしています。抑制された要素による美を追求した空間となりました。



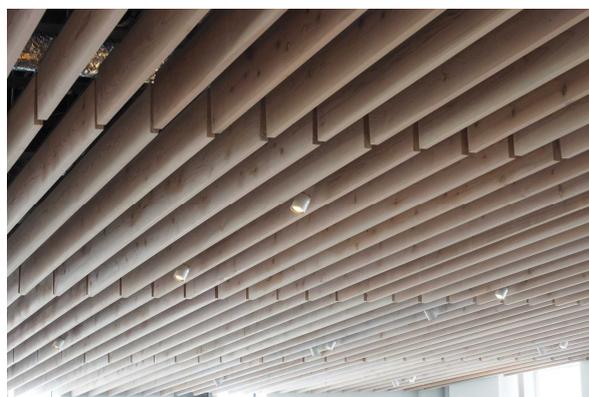
コンクリートの床（1階）



巨大な鉄板を用いた階段手すり



リン酸亜鉛処理によるバルコニー手すり



天竜杉の天井ルーバー

特集 道の駅 伊豆編



平成29年5月1日、田方郡函南町に道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」がオープンしました。道の駅とは簡易パーキングにトイレ、情報施設、地域振興施設等付帯施設を併せて整備することにより道路利用者に休憩を提供するとともに、その地域の情報発信や地域連携の拠点となる施設です。現在静岡県には24箇所の道の駅がありますが、今回は伊豆ゲートウェイ函南を中心に伊豆地域の道の駅をいくつかピックアップして紹介します。東部・中部・西部編も今後紹介しますのでご期待ください。

■ 伊豆ゲートウェイ函南 (函南町)



イベント広場と自由通路

イベント広場を中心に口の字型に建物はレイアウトされており、イベント広場を取り囲むように設置された屋根付きの自由通路はどの店舗からも出入り可能になっていて施設全体を開放的な雰囲気としています。

5月1日にオープンした伊豆ゲートウェイ函南は伊豆縦貫道から伊豆中央道へ入るまさに伊豆の玄関口といえる位置にあります。木材をふんだんに使った落ち着いた色彩の外観に、晴れた日には富士山を展望出来る展望歩道橋が特徴的です。中庭はイベント広場として利用可能で、音楽ライブや雑貨の販促活動などが出来るようです。



イベント広場での紙芝居



イベント広場から2階へ上る外部階段



いず寿司 (上)



伊豆シカ肉と函南野菜のラタトゥイユサンド

物品販売所には函南地域の野菜や丹那地区の乳製品など特産物が販売されています。又、近年増えているサイクルツーリスト向けのカフェなど、自動車だけでなく自転車による旅行者の事も考えた施設になっています。これは東京オリンピックの自転車競技が伊豆で開催されることもあり、サイクリストの聖地として伊豆地域をPRしていこうという事のように、自転車旅行者にはうれしい施設になっています。



展望歩道橋から見える富士山



物産販売所



地域の野菜を中心としたレストラン

伊豆ゲートウェイ函南
 静岡県田方郡函南町塚本 887-1
 9:00~18:00 (店舗によって異なる)
 コンビニ 24 時間営業

■ くるら戸田 (沼津市)



平成 27 年 4 月にオープンした沼津市戸田の道の駅「くるら戸田」は天然温泉が楽しめる他、戸田地域の文化紹介コーナーや農産物の加工体験室などが併設されています。60 歳以上の沼津市民が利用できる高齢者交流ルームや地区センターなど地域の活性化の拠点としても期待されています。内外ともに木材を多く使用しており、温かみのある施設となっています。



天然温泉 壱の湯



戸田特産物コーナー

くるら戸田
 静岡県沼津市戸田 1294-3
 8:00~22:00 (施設によって異なる)
 温泉は 10:00~21:00

■ 伊豆のへそ（伊豆の国市）

道の駅「伊豆のへそ」は平成 28 年 6 月にリニューアルし、現在の 8 角形の建物になりました。狩野川の中流域にあり、文字通り伊豆半島の中央に位置しています。内部は柱・梁・小屋組みを見せた特徴的な建物となっています。地場製品の販売のほか地ビールの販売やバウムクーヘンを施設内で作るなど来場者を楽しませています。



小屋組を見せた施設内



バウムクーヘン工場



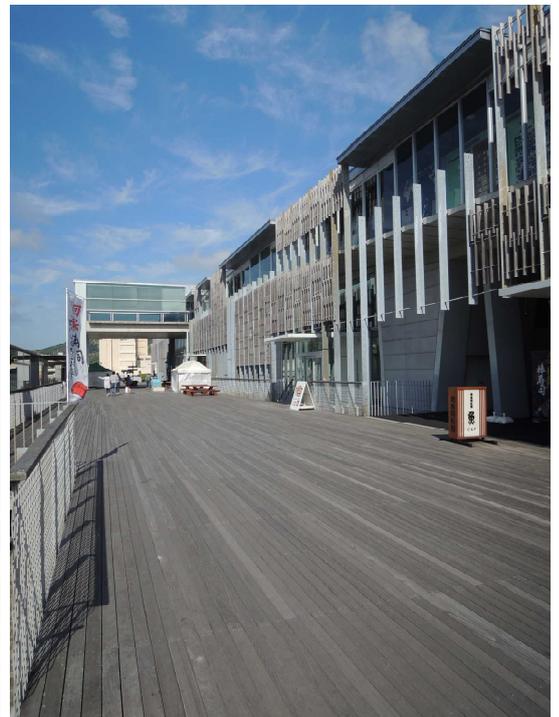
伊豆のへそ

静岡県伊豆の国市田京 195-2

平日 9:00~17:00 (観光案内所 10:00~16:00)

休日 9:00~18:00 (観光案内所 10:00~16:00)

■ 開国下田みなと（下田市）



2階 ウッドデッキ（イベントなどにも使用できる）



海産物直売所

道の駅「開国下田みなと」は下田魚市場の正面にあります。もともと学習施設であったものを利用し道の駅にしたもので、他と比べると大きな建物になっています。目の前の漁港で揚がった魚介類の直売所や、農協の野菜直売センター、レストランや回転すしなど充実した店舗に加えて観光案内所や 2 階には大きなウッドデッキもあり、開放的な建物になっています。ミュージアムや会議室、展示室、市民ギャラリーなど多様な用途に対応できる施設です。

開国下田みなと

静岡県下田市外ヶ岡 1-1

9:00~17:00 (店舗によって異なる)

2016しずおか木造塾（第5講座）

しずおか木造塾委員会 山下晋一

I部「建築家藤井厚二の住宅作品の魅力を語る」

講師：松隈章氏（聴竹居倶楽部 代表理事）

竹中工務店で様々な建築に関わる中、1995年1月17日の阪神淡路大震災を経験し、転機となった。

「建築って社会とつながって、拓（ひら）かなければならない。」との思いに至る。そして、建築を美術館で展示する取組みを始める。阪神大震災で、建築家・武田五一の芝川邸が被災し、明治村に移築する際、実測をして、1996年にその資料や図面の展示会を三重県立美術館で行った。展示会の際、『聴竹居』の持ち主である藤井厚二の次女と繋がる事ができ、

『聴竹居』が2001年に借家になり、その際、実測。この住宅は、藤井厚二が40才の時、1928年に建てた5番目の自邸である。現在、“聴竹居倶楽部”が、企画運営している。

藤井は、村野藤吾と同世代（年齢は村野が三つ下）で、日本の気候風土に適合した日本の住宅を実現しようとした、日本で最初の人。理論としての日本の住宅を実践した。和風と洋風、それぞれの技術やデザインを統合し、その長所に拠った様式を追求している。そのため、いつの時代にも魅力的で愛着が保たれる「タイムレスデザイン」を実現している。

温熱環境については欧米諸国と日本の気候とを比較し、快適の明確化を図る、「日本の住宅」を出版。1919年に欧米を視察して、日本の住宅がいかに貧しいかを実感し「其の国を代表するものは住宅建築である」と言った。そこから実験住宅をつくり続けた。

藤井は、関東大震災の3日後には、現地を見ている。その上で、日本の住宅は欧米のものをそのまま持ってきてはいけない、ということを反映している。

3.11の東日本大震災後、建築家がこぞって現地に行ったが、地域と繋がっていないので、何もできずに帰っていったことをもっと教訓にしなければならない。災害が起こる前に、災害から学ぶしておく。普段の付き合いができていのか否かこれが、ライフラインに繋がると思う。

II部「住宅遺産トラスト&住宅設計作法」

講師：野沢正光氏（建築家・東京）

【住宅遺産トラスト】：ちょっと前の住宅を何とか残したい。そして残ると楽しい！我々が住宅を考える時にも、前のが無いと困るから。2008年、吉村順三設計の園田高弘邸について、持ち主から、NPOに相談があり、2012年に展示会を開催したところ、日経新聞に掲載され、大阪の方（熱狂的な吉村ファン）が購入する事になった。他の建築もいろいろな相談を受けて、2013年4月に「一般社団法人 住宅遺産トラスト」を設立した。継承したが、解体されてしまったケースもある。建築サイドが残したいという思いだけではうまくいかない。不動産や税金関連、相続の問題に対応できる人材が大事。また、法や制度も重要で、行政への働きかけや、条例の研究、展開も行っている。

【私の設計作法】「住宅の架構をさかのぼる。支え構造と分離ユニット、サポートとインフィルを分けて使う」という考え方。コルビュジェの“ユニテダビタシオン”は、コンクリート架構+プレハブ化。太高正人の“人工土地”、清家清の“私の家”など。建築が趣味っぽいとこがなく、すべて、スケルトン。中にはいつかいるものが循環する。サポートを趣味っぽくつくと長続きしない。シェルターとしての性能をしっかりと確保する。架構で大工が喜ぶものをやりたい。これは日本だからできる“木造ドミノ住宅”。徹底したスケルトンインフィルで、裸の家に戻る事ができる。

今、住宅地がどんどんつまらなくなっている。「ソーラータウン府中」では、住宅をつくるのではなく、住宅地をつくる。土のままの街路はアスファルトの住宅地と温度が違う。そんな住宅地を増やしてゆくべき。

宮脇壇が24年前やった『青葉台ボンエルフ』は住宅をやらずに、町並みをやる。隙間に緑を植える。建築というのは、どうなっていたら一番楽しくて、クライアントにとって豊かなのか、ちゃんと冷静に、考えつくる。そして、考えていることを誠実に、社会の中で話してゆく、それが建築を「拓く」という事である。

「相談は誰に？」

仕事おやじ／東部ブロック

先日、空き家対策の相談で東京に打合せに行ってきました。施設に移ったお母さんが1人で住んでいた家の相談でした。息子さんであるクライアントは既に独立しておりこの家をリモデルするか、建替え、はたまた売却するか悩んでいたのですが、誰に相談すればいいか分からなかったと。大手のハウスメーカーの展示場に行って相談してもどこも回答もなかったという嘘みtainな本当の話。そこで共通の友人を介して紹介して頂いたのです。設計者として出来る範囲で建物調査の方法、耐震の考え方や建て替えの時の進め方などを話してきましたが、感じたのは一般の方々は相談相手に設計事務所を選択しない事でした。

その日の帰り、谷中に住む大学時代からの友人に会ってきた。ご承知の通り下町谷中、古い情緒が今なお残る街並みは懐かし景色でした。彼は親の代からの彫金士。今では自分で店を構えデザインしてオリジナルなジュエリーを作って販売している。近くには千代紙の「いせ辰」、「谷中霊園」などもあり、散策には楽しい所です。お互いの近況などを話し、ご近所さんの話へ。お互いもうすぐ60才に届こうかというところですが、近所ではまだまだ若造で、高齢化の真只中、空き家も多く困った問題だと。そんな中、写真のように昭和13年築の木造住宅3軒が解体される運命を救うべく気持ちを持った企業と地元NPOが協同で買い取り写真のように趣のあるカフェやビアホールパン屋さんが店を連ねて地域の賑わいの路地になっていました。

新築着工件数が減少しかないこの先設計事務所の目指す「相談相手」として在りようが大切なのかもしれないと思った出張でした。



今帰ったよオ・・・。

どこに行ってたのッ！／西部ブロック

夜道を歩いている。

この業界に足を踏み入れて丁度40年。沿道の住宅を横目でにらむ。屋根型においては入母屋→切妻→片流れ。外壁にあってはト→ガル。外観の流行りも40年の間に変わった。わが家の形態を表すように台所は主婦と共に地位を高め暗い北側から明るい南タン→塗り壁→サテイング。屋根にあっては日本瓦→カーベスト側に進出した。反面、四季の美や和みを飾り訪問者を迎える床の間のある静寂な紙障子の和室は消えた。堅苦しくなく気楽に訪問者はフレンドリーに迎えられ家人と共にリビングに集う形になった。

住宅という箱モノは人が創るもの。人の思いが具現化される。そういえばかつて客人はその家の最良位置に客人の為だけに造られた室に招かれたものだった。その客人の為に家族団らんの場所である茶の間は余った北側の快適とは言えない暗がりの位置に配された。他人を思いやり茶の間より広くて居心地の良いビッブルームの為に家人は訪問者に失礼のないようにと快くその位置を明け渡したのである。

自身を過度に尊重しやす現代の風潮を簡単に否定するつもりは毛頭ない。豊かさを求め現代化する人のように住宅も豊かな生活を支える為に変遷を重ねる。ただ単につまらぬ感傷にふけて昭和の住宅を懐かしんでたまたまここを歩いているだけだ。

仕事帰りに立ち寄った見知らぬ居酒屋を出て、このそばに住まう友人に会おうと思立ち、子瓶片手に若夫婦と2人の孫と共に暮らすという友人の家に千鳥足で向かったのだが、途中で気弱になってそのまま引き返して家路をたどる道すがら。一抹の寂しさに左右に揺れる月を見上げた。否定するでもなく理解するでもなく、わかっているような顔をして苦笑いしてみる。

「月よみの光りを待ちて帰りませ 山路は栗のイガの多きに」
（帰るって？帰りの道にや栗のイガがたくさん落ちているから暗闇を行くとイガを踏んで足を痛めるぞ。もうじき月が出るからそれから帰ればいいじゃないか。月明かりの中ならイガをよけて通れるから。な？、もう少しゆっくりしていけよ。）イガなんぞありもしないのにね。良寛さん。
あてが外れちまったよ。

歯も抜け始めた還暦過ぎの体を引きずって「時代に乘れない理屈」が、訳もわからぬ「納得」を求めて夜の街を徘徊している。『嫌だ、イヤダ。歳は食いたくネエな。』。居ない友人相手にブツブツ話しかけているうちに足のだるさで立ち止まる。やれやれもう少し歩いてそこを曲がれば、子供は巢立って既に居ないが女房が棲み付く30坪築35年のわが家の灯りが見えだすはずだ。ポケットのガラケエをまさぐりのぞく。マズイこんな時間か。何十年経っても変わらぬ雷がまた落ちるぞ。くわばらクワバラ。

設計打合せ等に最適！ 建築関係者は半額料金！

建築事業者も利用可能な建築住宅の相談窓口

■ 空室確認・予約 ■
あんしん建物相談室 "ミーナ葵"

☎ 054-251-8011
火曜日～土曜日 10:00～18:00

静岡県葵区紺屋町17-1 葵タワー7階
<http://www.mina-aoi.jp/kaigishitsu/>

運営：静岡県建築住宅まちづくりセンター

■ 静岡駅前 葵タワー
■ 20席 (32㎡)

貸会議室

火曜日～土曜日	一般の方	建築関係者
午前 9:00～12:00	4,000円	2,000円
午後 13:00～17:00	6,000円	3,000円
終日 9:00～17:00	10,000円	5,000円

設備 プロジェクター (1,000円/1回)
TVモニター (500円/1回)



地域づくりに学生活躍 そして、建築士も？

■高校・大学が地域づくりへ参画

県内の一部地域を除いて人口が減少し、少子高齢化、人口流出の傾向はさらに進行している。

1991年に「限界集落」が発表され、2014年には「消滅可能性都市」と定義、基準は異なるものの中山間地域から都市へと広がり、地域課題、行政の重点課題にまで発展している。

こうした背景の中、全国的に都市・山村交流の田園回帰や若者の農業・農村への関心の高まりも見せ、国においても、持続的なケアを受けることができる生涯活躍のまちづくりが進行している。

これは、都心、市内の高齢者をはじめ、居住者・周辺住民等がともに、地域社会の中で健康でアクティブな生活を送ることができる「コミュニティづくり」を行うまちづくり等を目指している。

静岡市では平成27年に静岡市移住センターを開設し、平成27年度の相談件数は328件、相談来館者では、シニア層よりも若い世代の移住希望者が多く、移住の動機はUターンが多いという。

こうした県の外部環境だけでなく、県内地域の内部環境も変化しつつある。

高校生や大学生が地域課題の解決に参画し始めている。これまでは、大学の一部の学科や専門高校などが一部の地区などに入り、特定の課題を解決していたが、近年、学校ぐるみで、地域課題に取り組む例が増えてきた。

【学生参画 3例】

静岡大学では、昨年「地域創造学環」として従来の学部の枠組みを越えることを可能にした新たな教育プログラムを創設し、幅広い教養と高い専門知識を身につけながら、積極的に地域（フィールド）に飛び出して、地域が抱える様々な問題と向き合い、その解決策を地域の人々と考えながら、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことができる人材育成が始まっている。

富士市立高等学校では、平成23年頃から総合的な学習の時間「究タイム」において、2年生の全生徒が、自らが暮らす地域の課題を発見し、その解決を目指して何ができるか、半年間じっくりと向き合う学習を行っている。

常葉学園菊川高校、県立小笠高校では、昨年、菊川市と「地方創生に係る包括的な連携協定」を締結し、地域の課題研究授業を実施している。

【建築士の参画機会】

高校・大学の学校ぐるみの一例を示したが、他の学校も実施している。これからさらに増加していくと考えられる。学校の指導や地域への参画の仕方もまだ脆弱である。

まちづくりの専門家である建築士が関わる幅広い分野へのチャンスが見え始めている。

木村精治 中部ブロック清水地区

○静大地域創造学環報告会（今年）



○富士市立高まち歩き（今年）



○常葉学園菊川高校検討会（昨年）



1. 開催日時 平成29年6月9日(金) 午後2時30分開会
午後5時30分閉会
2. 開催場所 中島屋グランドホテル4階 オークッドの間
静岡市葵区紺屋町3-10

3. 総会開会

- (1) 国歌 斉唱 全員(国歌 斉唱)
- (2) 開会の言葉 飯尾清三 副会長
- (3) 物故者等への黙祷 金子弘一常務理事より過去1年間の次の物故者7名の氏名が読み上げられ、物故者に出席者全員で黙祷を捧げた。

熱海地区 斉藤 晴三様、熱海地区 梅原 一美様、
三島地区 西島 嘉道様、沼津地区 栗田 征夫様、
沼津地区 望月 孝次様、裾野地区 市川 末男様、
富士地区 平柳 利幸様

- (4) 会長 挨拶 佐藤博行 会長



- (5) 綱領 唱和 青年委員(浜松地区 小倉博文会員、裾野地区 渡邊俊伸会員)

4. 議事

- (1) 出席者数の報告 金子弘一常務理事より報告
 - ア. 正会員の出席者数65名、書面表決提出者数663名、合計728名
 - イ. 定款第18条第1項の規定により正会員総数1,219名の2分の1を超えているため、本日の会は成立した。

(2) 議長を選任

定款第16条により、「総会の議長はその総会において出席した正会員のうちから選任する。」となっている。選出方法について司会者より全員に諮ったところ、「司会者一任」の声があり、司会から中遠地区の原田清司氏を指名し、全員の承認を得た。

- (3) 原田清司議長 就任挨拶

(4) 議事録署名人の選任

定款第20条第2項の規定に基づく2名以上の選任について、議長に一任していただけるか諮ったところ「異議なし」の声により議長は、中部ブロック静岡地区の石垣秀芳氏、中部ブロック静岡地区の石上鎮夫氏の2名を選任した。

【議場締切出席者確認】金子弘一常務理事より報告
正会員の出席者数69名、書面表決提出者数663名、合計732名

(5) 議案審議 原田議長

・報告1 平成28年度事業の報告について

原田議長は、執行部に報告1の説明を求めた。
小野常務理事から、平成28年度事業の報告がなされた。
原田議長は、報告1と第1号議案については、関連があ

ることから一括審議を指示した。

・第1号議案 平成28年度収支決算(計算書類)の承認について

原田議長は、執行部に第1号議案の説明を求めた。
事務局長から、平成28年度収支決算について説明がなされた。

引き続き、小林監事から、5月8日に静岡県建築士会4階会議室において、西山監事、小林監事、渥美監事、佐藤監事の4名で行った監査について、監査方法の概要は、定款第40条の規定に基づき、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録について監査したこと、その監査の結果は、(1)事業報告は、定款に従い、会の事業の運営状況を正しく示しているものと認め、(2)貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録は定款に従い、会の財産及び収支の状況を正しく示しているものと認めるとの報告がされた。

原田議長は、執行部の報告1、第1号議案の説明及び監事の監査報告について、質疑を求めたところ会員からの質疑は出なかった。

原田議長は、質疑が出なかったことから第1号議案について、本日、正会員に対し受付で渡された表決用紙を記入の上その場で掲げ、これを事務局職員に回収し集計するよう指示した。

(第1号議案 事務局回収・集計)

この結果を事務局長から報告

出席正会員の表決賛成は67名、書面表決による承認は653名、合計720名であり、本日出席正会員と書面表決提出数の合計732名の過半数を超えている。

原田議長は、ただ今の報告により、第1号議案は承認されたと宣言した。

・報告2及び報告3について

原田議長は、2つの報告については、関連があることから一括して報告することを指示した。

松下副会長から、平成29年度の事業計画について、また、細澤理事から、平成29年度の収支予算についてそれぞれ説明がなされた。

原田議長は、報告2及び報告3について、質疑を求めた。

これに対し質疑は出なかった。

・第2号議案 理事及び監事の選任について

原田議長は、定款第21条第1項にて会長1名、副会長3名、常務理事6名以内、理事は会長職等を含めて15名以上20名以内、監事は3名以上5名以内、同第22条第1項により理事と監事は総会の決議によって選任するとの定めとなっていると説明し、執行部に説明を求めた。

執行部から小野常務理事が、第2号議案を説明した。

原田議長は、定款第18条第3項により役員の選任は候補者毎に出席会員の過半数の決議が必要とされるため、

第2号議案について、本日、正会員に対し受付で渡された表決用紙を記入の上その場で掲げ、これを事務局職員に回収し集計するよう指示した。

(第2号議案 事務局回収・集計)

この結果を事務局長から報告

出席正会員の表決賛成は69名、書面表決による承認は660名、合計729名であり、反対が3であった。この結果、賛成票は本日出席正会員と書面表決提出数の合計732名の過半数を超えている。

原田議長は、ただ今の報告により、佐藤正一氏を理事に選任する第2号議案は承認されたと宣言した。



【常務理事選定理事会】

原田議長は、定款第22条第2項により会長、副会長及び常務理事は理事会の決議によって理事の中から選定されると規定されていることから、後任の常務理事の選定のため、別室で理事会を開催するよう求め、理事会開催の間、休会することを宣言した。

(休憩：午後4時30分～午後4時50分)

原田議長は、会議の再開を宣言し、理事会による結果の発表を求めた。

金子常務理事から、理事会の結果が次のとおり報告され、新役員の紹介が行われた。

常務理事 細澤 啓司 (沼津地区)

理事 佐藤 正一 (富士地区)

新常務理事、新理事から就任の挨拶があった。

原田議長は、以上により予定の議事は終了したことを宣言するとともに、議事進行協力への謝辞、本会発展への祈念の辞を表し降壇した。

金子常務理事から、本日の来賓に入場をお願いした。

(来賓入場)

5. 来賓紹介

細澤常務理事から、来賓(次の皆様方)の紹介がなされた。

- 静岡県議会議長 杉山 盛雄 様
- 静岡県くらし・環境部長 高木 利夫 様
- 静岡県くらし・環境部建築住宅局長 大石 武司 様
- 静岡県くらし・環境部建築住宅局住まづくり課長 渋谷 信明 様
- 一般社団法人静岡県建築士事務所協会会長 遠藤 正幸 様
- 一般財団法人静岡県建築住宅まちづくりセンター 理事長 青山 巖 様

公益社団法人静岡県宅地建物取引業協会会長

初澤 宣廣 様

公益社団法人日本建築家協会東海支部静岡地域会

副地域会長 望月 美幸 様

一般社団法人静岡県設備設計協会副会長

名波 睦生 様

一般社団法人静岡県設備協会副会長 夏目 英明 様

一般社団法人静岡県建設産業団体連合会専務理事及び

一般社団法人静岡県建設業協会専務理事

西川 久男 様

静岡県行政書士会副会長 渡邊 政年 様

静岡県鐵構工業協同組合副理事長 渡邊 靖之 様

特定非営利活動法人静岡県建築技術安心支援センター

副理事長 鈴木 敦夫 様

株式会社建通新聞社代表取締役社長 瀬本 次久 様

公益社団法人静岡県建築士会相談役 大澤 稔 様

公益社団法人静岡県建築士会相談役 西山 昌行 様

公益社団法人静岡県建築士会相談役 朝比奈 清久 様

公益社団法人静岡県建築士会相談役 原田 清司 様

6. 来賓祝辞

静岡県議会議長 杉山 盛雄 様

静岡県くらし・環境部長 高木 利夫 様



7. 祝電披露

公益社団法人日本建築士会連合会会長 三井所 清典 様

静岡県行政書士会会長 平岡 康弘 様

静岡県行政書士政治連盟会長 児島 良孝 様

静岡県土地家屋調査士会会長 赤堀 一通 様

8. 熊本地震被災調査報告

金子常務理事から、平成28年4月に発生した熊本地震の調査のため、静岡県建築士会から飯尾副会長を班長とする8名の調査班を平成28年8月25日～27日に掛け現地に派遣し、調査活動を行い、その結果を報告書として取りまとめたことが報告された。

その報告書が総会出席者に配布され飯尾副会長から調査の概要が報告された。

9. 閉会のことば

齊藤 功 副会長

(来賓退席)

午後5時30分閉会

◆編集後記

今回は2つの特集を組んでみました。どうでしたか。本当は1つにしようと思っていたのですが、委員会における両方やればとの他人事な意見に押し切られ、2つの特集を組むことになりました。ありがたいことに西部袋井の理工科大学から下田の開国みなとまで県全域に渡って取材に行かせていただき、白い灰になりそうです。(天城道の駅は前を素通りし、松崎三聖苑にも実は行っております。どうせバイクのツーリングがてらだろうなんて言うてはいけません。) まあいいんです。皆様に楽しんでいただければ。次に編集長を行う機会があれば、又がんばりますよ。燃え尽きるまで。新入学後の忙しい時に寄稿していただいた静岡理工科大学様、快く取材を受けていただいた道の駅の運営、市町村の皆様、御協力感謝いたします。

編集長 広報情報委員 塩見敏弘

取材協力・素材提供

静岡理工科大学 企画室室長 山下博通様
 函南町様
 加和太建設株式会社様
 沼津市様
 伊豆の国市様
 下田市様

ご協力感謝いたします。

◆ご意見募集

静岡県建築士会広報情報委員では、広報誌「建築静岡」をより有益な情報源とするためのご意見、ご提案を募集しています。お名前、ブロック名をご記入の上、下記あてに FAX でお願ひします。なお、いただきましたご意見は非公開とし、個々のご意見への直接回答は控えさせていただきます、ご了承下さい。

公益社団法人 静岡県建築士会
 広報誌意見募集係 FAX 054-273-0478

◆広報情報委員会

担当理事：鈴木幸子 (東部)
 委員長：杉山真一 (中部)
 副委員長：内山孝 (西部)
 ：鈴木忠 (東部)
 委員：塩見敏弘・三田芳之・長尾隆行 (東部)
 小沼勝也・星野浩二・佐野真浩 (中部)
 福田光宏・山口知己・志茂野昌歳 (西部)

編集長：塩見敏弘 (2017 Summer)

発行所：公益社団法人静岡県建築士会
 〒420-0857 静岡市葵区御幸町9番地の9
 TEL 054-254-9381 FAX 054-273-0478
<http://www.shizu-shikai.com>

印刷所：(有)橋本印刷所

◆事務局からのお知らせ

(公社)静岡県建築士会東部ブロック事務局は6月1日付で下記住所へ移転いたしました。

〒410-0801
 沼津市大手町4丁目3-36 寺王ビル
 TEL：055-939-8210
 FAX：055-939-8220
 MAIL：toubu-b@shizu-shikai.com

会員数 平成29年5月17日現在

■正会員 1,219
 ■賛助会員 160
 ■合計 1,379

入会者

■正会員 12名

三島：梅原 悠	1級	H1生	河津建設株式会社 下田市中411-1
沼津：青砥万季	2級	H2生	有限会社青砥工務店 沼津市榎島町1336-5
沼津：帆足洋平	2級	H4生	
清水：田邊隼平	2級	H5生	大東建託株式会社 静岡市駿河区池田114-1
静岡：田中香織	1級	S53生	株式会社アーキシステムエンジ 山形県鶴岡市切添町23-5
静岡：内野高伸	2級	S55生	株式会社大成住宅 静岡市葵区南安倍1-3-10
志太：待井翔伍	2級	H4生	
小笠：林 耕作	1級	S48生	株式会社エフエフ住宅 掛川市細田293
中遠：小坂教光	2級	S44生	有限会社小坂建築 周智郡森町睦美1758番地の4
浜松：末永武士	2級	H5生	
浜松：大林 勇	1級	S47生	大林 勇設計事務所 浜松市北区細江町中川7172-1366
浜松：山本大輔	1級	S63生	株式会社渡辺建築設計事務所 湖西市山口1番地の1

■賛助会員 1社

浜松：SGM株式会社 浜松市西区伊左地町2293番地の1

退会者

■正会員 27名

■賛助会員 4社

広告募集中

建築静岡に広告を掲載してみませんか？

お問い合わせ先
 公益社団法人 静岡県建築士会 本会事務局
 電話：054-254-9381 FAX：054-273-0478
 Mail:honkai@shizu-shikai.com

広告募集中

建築静岡に広告を掲載してみませんか？

お問い合わせ先
 公益社団法人 静岡県建築士会 本会事務局
 電話：054-254-9381 FAX：054-273-0478
 Mail:honkai@shizu-shikai.com

第8回 フォトコンテスト結果発表

広報情報委員会・東部ブロック事業

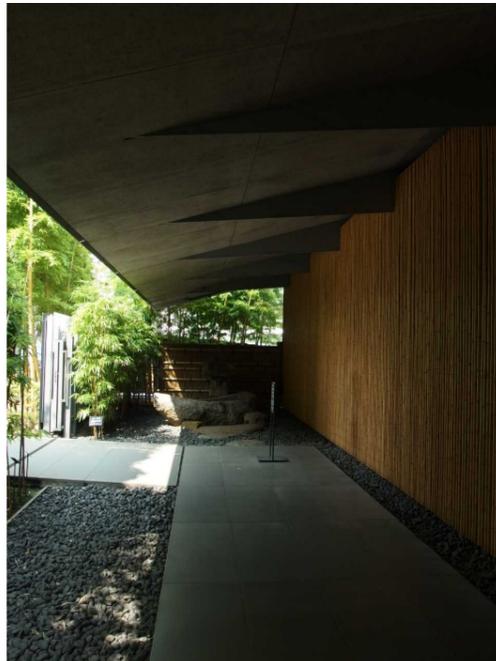
■最優秀賞

「カンピ礼拝堂 外観」
三島地区 石垣義紀
フィンランドのヘルシンキの中心街にあるカンピ礼拝堂。(外観) 公式な儀式や行事を行う施設ではなく、日常生活の中で心を安らかにする 場としてデザイン首都を記念して造られた木造建築。2012 年完成。
設計者はK 2 S設計事務所。



■優秀賞 「根津美術館」 浜松地区 小笠原徳明

東武鉄道の社長などを務めた実業家・根津嘉一郎 (1860~1940) が蒐集した日本・東洋の古美術品コレクションを保存・展示するためにつくられた美術館で、本館は隈研吾氏の設計により 2009 年に竣工。撮影したのは夏であるが、大屋根の下のアプローチは都会の喧騒を忘れさせ、ひとときの涼を感じさせる。



■優秀賞 「朝日のスカイツリー」 三島地区 西山洋雄

浅草の旅で朝の散歩で出会ったスカイツリーです。最高にきれいでした。

■優秀賞 「吊脚楼 2」 三島地区 森勲

中国で最も美しい街と呼ばれている鳳凰古城春秋戦国時代から清代に至るまで、軍事政治の中心として繁栄した当時の風景がほぼ完全な形で残っているそうです。「吊脚楼」とは川に杭を打ち、その上に地形に合わせて住居を構える建築様式 (特別賞他応募作品は建築士会 HP にて掲載していきます。)



一般財団法人
静岡県建築住宅まちづくりセンター では

建築物省エネ判定業務

を行っております。

省エネ適判
申請キャンペーン
実施中

2017年9月まで

詳しくはWEBで

皆様からのご相談やお悩み等に、親切・丁寧に対応いたします。



一般財団法人 静岡県建築住宅まちづくりセンター
業務部 省エネ課 TEL / 054-202-5581

静岡まちせん

検索

<http://www.shizuoka-kjm.or.jp/>

さらに、
こんなことで
お困りでは
ありませんか？



- *省エネ基準適合判定に係る省エネ計算や申請書の作成
- *建築物省エネ法における所管行政庁への届出書の作成
- *低炭素建築物の認定申請書類の作成
- *BELSの評価申請書類の作成
- *長期優良住宅の認定申請書類の作成

まちセンサポートセンター

(NPO 法人静岡県建築物安全確保支援協会 内)

がお手伝いいたします！

TEL / 054-202-5532



SC抗用 杭頭接合工法
クラウンパイルアンカー



お問い合わせ先

okabe 岡部株式会社 ベースパック事業部
〒420-0035 静岡市葵区七間町 18-1 PIVOT 静岡 301
TEL.054-204-7282 FAX054-204-7288
URL:<http://www.b-pack.net/>

平成 29 年度 一級/二級/木造建築士定期講習 開催日程

平成 26 年度に受講された方は、今年度受講対象です。

	講習日	場 所	定 員
第 2 期	平成 29 年 8 月 29 日 (火)	アクトシティ浜松	70名
	平成 29 年 9 月 12 日 (火)	プラサ ヴェルデ	100名
	平成 29 年 9 月 29 日 (金)	静岡労政会館	100名